

トンガレポート<2>

私は2016年10月12日より青年海外協力隊のシニアボランティア、卓球隊員として南太平洋のトンガ王国に来ている西岡です。

トンガでの生活も5ヶ月目に入りました。今回は前回お伝えできなかった項目や補足の情報をお伝えします。

1、気象・天候

トンガは四季がなく最高気温は年間を通じて30度前後と安定しています。南太平洋の島国というほとんどの方が大変暑いというイメージをお持ちだと思いますが、生活してみると以外に過ごしやすく今のところ極端に暑い日が続いて困ったということはありません。これまでの最高気温は33.3度です。そのため扇風機、エアコンを一度も使うことなく蒸し暑い日に日本から持参した団扇だけで済ませています。事前の情報で1~3月に雨が多く、サイクロンがやって来る時期ということでした。1月はさほど雨が降らず生活にほとんど影響がありませんでした。しかし2月に入った途端、ずっと雨が降り続きうんざりしています。時には大変激しく降り、トタン屋根をたたく雨音で目覚めたり、強風を伴った翌朝は屋外の木製フェンスが倒れていたりしました。



左の写真は小学校の校庭です。連日の雨でいたるところがこのような状況です。3月はさらに雨量が多くなりこういった水たまりに適度な暖かさが加わって「蚊」が発生する季節となります。すでに卓球練習場にも蚊が増えてきているため毎日殺虫剤を持参しています。まだサイクロンは来ていませんがこの先も来ないことを願っています。

2、交通関係

まず最初に、トンガには交通信号機は一機もありません。首都の大きな交差点に写真のような「ラウンドアバウト」(円形交差点)が5ヶ所あるだけです。最近では日本にも設置されていると耳にしたことがあります。これは信号機のない交差点のことで、信号機の代わりにしているのが真ん中にある土俵のような「島」です。常に自分対



して右から来る車が優先で、それが来なければラウンドアバウトに進入して左折はそのまま左折、直進と右折は「島」の周囲を時計回りに沿って自分の行きたい方向に抜けていきます。交差点進入時に右からの車がなければ一旦停止の必要もなく大変合理的です。



バスは写真のような日本でいう マイクロバス が使用されています。面白いのは「市」や「バス会社」が運営しているのではなく、個人の所有物で個人タクシーならぬ「個人バス」ということになります。各バスは所有者の居住地域の発着所から市内中心部へ同じ路線を行き来しています。バスごとに路線が固定されているわけで各車体には終点地区の地名が記されています。時刻表はなく出発地での乗車客数の状況によって適当に発車していきます。路上にバス停はありますが、それ以外の場所でも乗降可能です。運行は夕方 5~6 時迄で、もちろん日曜日是一切運行されていません。

トンガで走っている車のほとんど（感覚的には 9 割くらい）が日本製の中古車です。交通関係の項目で使用した画像に写っている車両は全て偶然日本車です。どこかで見たような車ばかりなので外国に来ているという感じが薄らぎます。

中には写真のように ○○建財株式会社や △△市 消防団（固有名詞画像から削除済み）といった具合にかつて日本で活躍していた時代の塗装そのままのここトンガの地を走っている車が多く、この国に親しみが湧く一因となっています。



3、環境(ゴミの収集)について

ゴミの収集は週に一回で各地域において日曜以外の収集日が決められています。画像は平均的な家庭の一週間分のゴミです。ゴミ収集車は後部からゴミを圧縮しながら回収していく日本でもなじみのタイプと平らな荷台のトラックの2種類があります。どちらの収集車が来ても係の男性は一人で収集車のゴミ投入口や荷台にこんな大きなゴミ箱を軽々とあげてしまうので見ているほうは驚きます。ゴミは分別せず、生



ゴミ・可燃物・危険物・ビン・缶・ペットボトル、などすべて一緒に収集されます。日本では分別収集が当然のため当初はかなり違和感と罪悪感を覚えました。何か環境に配慮できることはないかと考える中で、市内で写真のようなアルミ缶回収かごを見つけたため、飲み終えたアル



ミ缶はかまぼこ板くらいの端材を利用して平らに踏み潰してから投入しています。その他、スプレー缶は当然穴をあけますし、ゴミは埋め立て処理と聞いていますのでペットボトルもカッターとハサミで分解して容積を少なくするなどできる範囲の努力をしています。

4、むし・むし・虫、、、(この話題では敢えて画像は使用しません、状況をご想像ください)

トンガは日本と比べて自然環境が豊かです。そのため屋外だけでなく室内にもかなりの虫が現れます。日本で見たことあるもの、ないものも含めて毎日相当な種類・数の虫たちの処理に追われています。毎日決まって出てくるものもあれば、まるで当番があるかの如く日替わりで一種類が大量に出てくる場合もあります。夜、殺虫剤を噴霧して就寝し、起床後最初の日課は掃き掃除です。私は長年卓球をしているせいか室内でくつろいでいるときでも壁や天井で「動くもの」には何故か敏感に反応してしまい、昼夜を問わずゴキブリやヤモリなど見つけしだい情け無用で処分します。基本的に殺虫剤・ほうき・ちりとり の3点セットで処分しますが、状況によってはどうしてもティッシュやトイレトペーパーを使って「手」で処理せざるを得ない場合も発生します。それを繰り返しているうちにいつの間にか対象物を ①まともに見ない(視線をずらす) ②ぼんやりとみる(焦点を合わせない)ということに加え最悪の状況では ③見なかったことにする(記憶しない) というような「技？」が身につけてしまいました。

今のところ室内でハエや蚊は少数派、特にハエはほとんどいません。大物はムカデです。これまでに二度登場しました。二度とも 15cm 級の大型で私が子供の頃以来久しぶりに遭遇しました。

一度目は前夜の殺虫剤が効いたのか起床したらリビングの中央で弱っていました。二度目は台所で調理中に足元を這ったのに気付いて飛び上がりました。もちろん二度とも即刻処分しました。

変わったところでは、ある日床にマッチ棒程度の長さで黒いものが落ちていたのでゴミと思い直接手で拾おうとしたらモゾモゾと直進してびっくり。あわててほうきとちりとりで処分しました。これはたまに出てきますが名前がわからないので個人的に「直線むし」と名付けています。

トンガ到着当初は郊外の住居物件しか空きがなかったこともありこのような状況下で生活していました。2月に入り運よく市内中心部に空き物件があり引っ越したところ、以前の住居とわずか2kmしか離れていませんが登場するむしの種類・数ともかなり少なくなり殺虫剤代も節約できるようになりました。しかしどこに行ってもこの国では木材がある限り「羽アリ(白アリ?)」が登場します。木材の中に生息し、それをかじっているため床に砂のようなカスがたまるので存在がわかります。夜になると羽化して照明めがけて飛び回ります。このレポートも木製の机の上で作成していますが、いまま机の隅の方から小さな音でカリカリと羽アリが木材をかじる音が聞こえています、、、。

5、動物についての補足

前回のレポートでトンガでは様々な動物たちが生活と密着していることをお伝えしました。その後、写真左から ヤギ、中央 牛と馬、右 大きなコウモリ の写真が取れましたので紹介します。



すべて自宅から徒歩圏内地域での撮影です。なお前回、犬の放し飼いについて紹介しました。その後、トンガの方々から、そして書物により知りましたがトンガに限らずポリネシア地域で「犬」は普通に「食用」だそうです、、、。日本にいと普通でも外国に住んでみて「比べてみると」初めて日本の良さに気づくことが多々あり日々大変勉強になります。

今回お伝えしたこと以外にも文化や生活習慣の違いなどまだお伝えしたいことがいろいろとあります。今後もまた項目を変えてそれらを紹介する予定です。

2017/2/26

青年海外協力隊 シニアボランティア

2016年度 2次隊 卓球隊員

西岡 昌彦